



# 秋葉区自治協議会 区ビジョンワークショップ報告

2021.12.24／秋葉区役所

## 1. 開催概要

■日時：2021年12月24日（金）15：30～17：15

■会場：秋葉区役所 6F 会議室

■自治協議会委員数：28名／当日出席27名

■企画運営：NPO 法人まちづくり学校

〈進行〉メインファシリテーター 大滝聡

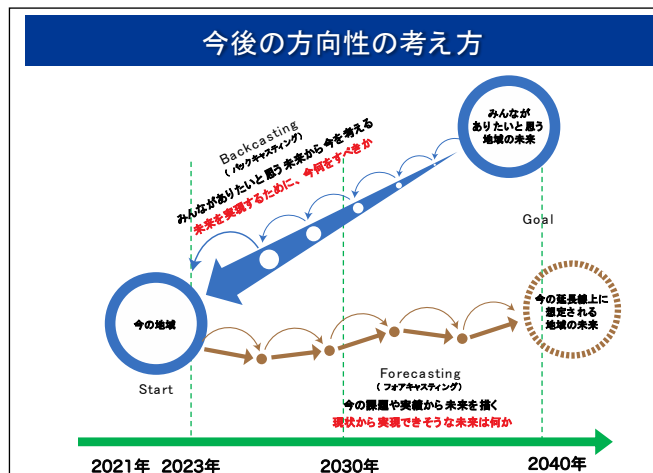
グループファシリテーター 荒井順也・成田倫史・長谷川敏栄・横尾文子・和田一良

■達成目標：これまでの取り組みに対し、プラスとマイナスの評価を行い、今年度実施した幸福度調査の結果を加味しながら「秋葉区は2040年にどうなっていればいいか」という視点で区の将来像の方向性をまとめる。

■プログラム：次ページのとおり。

5つの「目指す区のすがた」ごとに事前にグループ分けを行い、意見交換を進めた。

- I. うるおいとやすらぎのあるまち（1班）
- II. 楽しく元気なまちなかやさしさのあるまち（2班）
- III. 歴史と個性を活かすまち（3班）
- IV. 花のまち・食のまち・育てるまち（4班）
- V. 生み出し活かすまち（5班）



### 意見交換の約束ごと

**全員が発言できて、意見が多く出せるように**  
1人が長く話しすぎないようにしましょう。

**他の人の発言には耳を傾けましょう**  
自分とは異なる意見は新たな気づきになるかもしれません。  
否定や批判はせず、まずは受け止めましょう。

一人一人が発言するだけでなく、気になることがあったら、  
**どんどん話し合きましょう**

グループメンバー全員で協力し合って、  
**良い話し合いを創り出しましょう**

グループワーク開始前の説明スライド

これまでと  
これからを  
考える

## 秋葉区自治協議会 区ビジョンワークショップ

日時：2021年12月24日（金）14：30～16：30

会場：秋葉区役所 6F 会議室

- 14:30 オープニング  
あいさつ・趣旨説明・スタッフ紹介・プログラムの説明
- 14:45 ワークショップ1 ～目指す区のすがたに沿って現状を評価し合おう～  
これまでの取り組みに対する各自の評価意見の発表し合い、  
意見交換を行って共有します。
- 15:25 ワークショップ2 ～現状を見据えて未来のことを考えよう～  
2040年を想定して、今後の方向性を出し合い、みんなで合意  
できる未来の姿を言葉にします。
- 16:10 グループワークの結果発表  
1グループ2分で意見交換の結果を発表していただきます。
- 16:25 クロージング  
ふりかえりシートの記入・事務連絡など
- 16:30 終了

Mem o

---

---

---

---

---

■ワークショップのようす



## 2. グループワークのまとめ

### ■目指す区のすがたに対する今後の方向性（一覧）

#### I. うるおいとやすらぎのあるまち

①里山の保全と活用 ②川を活かした親水空間の有効活用 ③人と自然が調和した美しい景観のまちの保全 ④田園型環境都市の実現

- ところとふところ（お金）にうるおいややすらぎを与えるまちをめざす。
- 秋葉区には里山、川、田園など海以外のすべてがある。その自然資源と、鉄道、石油などの歴史資源、古民家、花、食などの地域資源を活かし、民間主導、行政支援形の観光などによって交流人口を増やし賑わいを作り出す。それを駅前の商店街の活性化へもつなげる。
- 里山、親水空間、景観、田園環境都市などすべてが繋がるので、それらを一体として考えつながらまちづくりをめざす。

#### II. 楽しく元気なまちなかやさしさのあるまち

①産学官、地域が連携したまちなか活性化 ②安心・安全なまちづくり ③支え合いによる誰もが健康でいきいきと暮らせるまちづくり ④秋葉区の個性を活かした次世代を育む環境づくり

- 支え合いと協働の場によって、個人の発想が活かされるまちとなっている。
- 古いものを大切に使う「手をかける文化」を高め、秋葉区の資源を大切に使う。
- 経済優先ではなく地域福祉を最優先にした公共交通が考えられていく。
- 困りごとに対応する小さな拠点を各地につくり、車に頼らないまちをつくっていく。

### III. 歴史と個性を活かすまち

①歴史ある文化や宝物の積極的な情報発信 ②個性を生かした交流のあるまちづくり ③文化の継承と創造による文化活動の振興 ④健康で豊かなスポーツ活動の振興

- 情報がどんどん入ってくる・発信されるまち。
- 秋葉区のオンリーワンを具体的に描く。
- 秋葉山など人が集まれる資源を活用したい。
- 自転車で行ける便がいいまち。
- 近所づきあいが上手くいっているまち。

### IV. 花のまち・食のまち・育てるまち

①全国屈指の花き・花木の園芸産地の魅力発信 ②環境にやさしい、安心・安全な農作物の供給 ③新潟薬科大学、商店街などとの連携

- フラワーロードの魅力を地元がまず理解して、1人1人が発信していく。
- 新潟薬科大学の「知の財産」を地域がもっと利用できるような仕組みをつくる。
- 花のまちをデザインするコーディネーターを起用する。
- 学生と地域が交流できるチャンスと場を増やす。

### V. 生み出し活かすまち

①産業の振興 ②バイオ技術に関する学術研究の拠点化 ③新潟薬科大学と連携した健康、自

## 立の確立経緯

- 商店街は元通りを目指すのではなく、これからの新たな形を模索していく。
- 一過性のイベントにとらわれず、長期的なファンづくりを念頭に置いた施策を打つ。
- 花のまちである特性を活かし、まちなかをお花で彩ろう（フラワーロード）。
- 学生×地域住民だけでなく、企業やお店を巻き込んだ大きな集合体を目指す。
- 既存のものを活かす視点で、個々の魅力も繋げていく。ヒトも立派な魅力である。



■各グループの意見と集約

I. うるおいとやすらぎのあるまち【1班】

方向性のまとめ	こころとふところ(お金)にうるおいややすらぎを与えるまちをめざす。
	秋葉区には里山、川、田園など海以外のすべてがある。その自然資源と、鉄道、石油などの歴史資源、古民家、花、食などの地域資源を活かし、民間主導、行政支援形の観光などによって交流人口を増やし賑わいを作り出す。それを駅前の商店街の活性化へもつなげる。
	里山、親水空間、景観、田園環境都市などすべてが繋がるので、それらを一体として考えつなげるまちづくりをめざす。

これまでの取り組みの評価		評価の集約または今後の方向性	
		個別意見	まとめ
<b>①里山の保全と活用</b>			
プラス	学生との連携 次世代へ 市民団体や自治会の力で徐々に整備が進んでいる 古津八幡山遺跡はよく整備されやすらぎの場である 新津美術館周囲の遊歩道や池、花木も手入れが行われていてやすらぎを感じる 秋葉山入口付近 マウンテンプレーパーク等、公園の充実 秋葉丘陵から金津にかけて案内表示やPRが充実してきた 秋葉公園内の整備が行われていて評価できる	・秋葉区には里山、川、田園など海以外のすべてがある。 ・①～③の活用はいずれも連動している。 ・鉄道を活かす。 ・空き家の古民家を活かす。 ・観光に里山や川などの自然資源を使う。 ・観光により商店街も一緒に潤う。 ・その観光は民間主導で(例えばスノーピークキャンプ場)。	
マイナス	継続できる仕組みづくり 案内板を立てようとすると所有者の特定、所有者の了承 国有の補助金がないのでコミ協から活動補助の申請 個人所有者とのコミュニケーションが取り組んでいるか不明 菩提寺山から大沢公園へ至る案内が不足 秋葉公園のキャンプ場整備が低い、トイレの汚れ 常に美化されるような仕組み作りが足りない	・行政は支援する形 ・それらによって里山の私有地の利用が進む。 ・やっかいものの石油をどう活かすか？ ・①～④を一体にして活用することが必要で、キャンプには秋葉区のおいしい食べ物を提供するなど。	
<b>②川を活かした親水空間の有効活用</b>			
プラス	自然を活かしたイベント 新津川遊歩道の整備が進み、利用者が増加している ランニングコースとして利用中 散歩する人が多くみんなのいやしスポット 阿賀野川河川敷公園は整備されよく市民が利用しているのを見かける		・鉄道などの資源を活かし、里山、川、田園が整備され、安心して自然を楽しめるまちをめざす。
マイナス	新津川と直接触れ合えるような、環境を整えることで、より親しまれるようにしたい 新津川等の区民協働による保全活動の呼びかけが弱い 活動していることを知らない区民が多いのではないか 新津川や能代川の整備や手入れが進んでいない 雑草だらけである 歩いているときに気づいたらゴミを拾えるように、ごみを捨てる方法 信濃川河川敷のPRと親水環境の実現 雨をよけるスポットは新潟には必須 花壇を自由に使えるようにしても良いのでは 信濃川と阿賀野川、2大河川の魅力をもっと活かせれば 常に美化されるような仕組み作りが足りない		・里山や川、まちなどに人が集まる場所が増える。 ・若者に向けてインスタ映えするまち ・すべてが繋がって活用することでやすらぎとうるおいにつながる。 ・商店街のうるおいにもつながる。
<b>③人と自然が調和した美しい景観のまちの保全</b>			
プラス	・下水道汚水の整備が行われ、衛生的である ・下水そうじが3年に一度程度で楽になった		
マイナス	なし		
<b>④田園型環境都市の実現</b>			
プラス	・ゼロカーボンシティを目指し、活動が少しずつ進みだしていると感じる ・花のまち、石油のまちという財産 ・里山、田畑、河川と自然資産に恵まれている利点を活かした事業が計画されている	・ゼロカーボンをめざす。 ・農家がイキイキするまち ・農家や自然資源を活かしてCO2の取引を目指す。	
マイナス	・まちの財産と商業効果が相入れない ・恵まれた自然資産を観光や産業ではない別の観点からPR出来ないか ・担い手となる中心の場が足りない ・グリーンセンターの排熱を使うことを考える 電気をおこす	・食べ物のおいしいまち ・子どもが生まれると市が緑をプレゼントするなどの施策をつくる。 ・緑を活かすまちづくり	

II. 楽しく元気なまちなかとやさしさのあるまち【2班】

コメントのまとめ	支え合いと協働の場によって、個人の発想が活かされるまちとなっている。
	手をかける文化を高め、秋葉区の資源を大切に使う。
	経済優先ではなく地域福祉を最優先にした公共交通が考えられていく。
	困りごとに対応する小さな拠点を各地につくり、車に頼らないまちをつくっていく。

これまでの取り組みの評価		評価の集約または今後の方向性	
		個別意見	まとめ
<b>①産学官、地域が連携したまちなか活性化</b>			
プラス	大学生だと思われる人たちがカメラを持って何かを調べていた。おそらくまちなか活性化に関する取り組みだと思われる。実際に街に出て調べていることに感心した。		
	薬科大との連携が良好である。		
	昭和を懐かしむ店に子ども連れ家族、若者が訪れている。		
	歩いて行ける距離に文化施設があり、新津まちなかは文化の中心である。		
	区内でいろいろなジャンルのお店が増えて、区内で充分楽しめる。		
マイナス	旧2番館の跡地の利用がされない。	取り組みの周知を徹底させる。大型スクリーンの設置とそれらを利用した秋葉区の魅力発信を行う。映像による取り組みの可視化に努める。	
	PR下手である。	何でも新しくつくりなおすという考えはまいまちで、古いものを生かしていきたい。	
	魅力発信の弱さ。		
	宿泊施設がない。		
	街中にはベンチが置いてあるけど、有効活用されているか疑問だ。		
	基礎となる産業がない。		
<b>②安心・安全なまちづくり</b>			
プラス	日頃の活動により防災・防犯意識が高まってきた。		
マイナス	避難指示の情報が非常にまずく早期に検討を要する。		
	「避難行動要支援者名簿」を自主防災組織や協力自治会へ実施とあるが、避難訓練に生かされているのだろうか。住民意識の多様化で、プライバシーに関する意見もさまたまになってきている。		
<b>③支え合いによる誰もが健康でいきいきと暮らせるまちづくり</b>			
プラス	新潟市の中でも秋葉区はサロン・茶の間の数が多い。	移住者対策にグッドライフ金津の魅力をもっと発信するべきだ。	買い物難民を助ける小さいお店（先行事例としてある共同店のようなもの）ができており、スマホアプリなどを活用して利便性の高いサービスとなっている。
	自治会、町内会などの活動が活発である。	老後が安心なまちになってほしい。	
	あらためて仕組みをつくらなくても助け合っている。	ほっとけない気質は強く、人の良さが効果を発揮している。	
ナマスイ	地縁による助け合いは、今はいいが、学校が遠くなっているなどこれから不安に感じる要素が出てきている。		
<b>④秋葉区の個性を活かした次世代を育む環境づくり</b>			
プラス	森の幼稚園は活発で、秋葉区は環境面でリーダーになり得る。		古いものを大切に使う「手をかける文化」を広げる。 分散型電源で、再生可能エネルギーのトップランナーになる。
	親子世代の移住が増えている。		
マイナス	地域教育コーディネーターは、男性だけではなく女性も入れて！！（小須戸）複数の方がベスト。		一人ひとりの発想から開拓が始まる時代を支える地域での出会える場所が充実している。
<b>⑤持続可能な地域公共交通環境の構築</b>			
プラス			
ナマスイ	公共交通がない場所がある。	住民バスはぼしやっだけれど、スクールバスの要望には応えて欲しい。	経済優先ではなく、地域福祉を最優先に公共交通が考えられていく。
	駅前アーケードの設置が進まない		
<b>⑥交通網の整備</b>			
プラス			
マイナス			
<b>⑦協働によるまちづくり</b>			
プラス			自治協委員の構成が、団体代表から地域代表と世代別代表に変わる。
マイナス			やりたいことが実現に向かう「支え合いと協働」の体制がつくられる。

Ⅲ. 歴史と個性を活かすまち【3班】

コメントの方向性のまとめ	情報がどんどん入ってくる・発信されるまち
	秋葉区のオンリーワンを具体的に描く
	秋葉山など人が集まれる資源を活用したい
	自転車で行ける便がいいまち
	近所づきあいが上手くいっているまち

これまでの取り組みの評価		評価の集約または今後の方向性	
		個別意見	まとめ
<b>① 歴史ある文化や宝物の積極的な情報発信</b>			
クラス	SNSの情報発信が良い	「FMにいつ」での行政情報に歴史・文化・宝物などの話題発信	<p>●情報がどんどん入ってくる・発信されるまち 情報がいつでもどこでも気軽に手に入る 市民がどんどん情報を発信したくなっている 観光(交流)と関係人口→移住定住の施策を一体化。あ！キハの中にアキハスムデスクを置く 歴史・文化・アート関連の魅力的なWS/プログラムがたくさんある！</p> <p>●近所づきあいが上手くいっているまち 情報共有がはたらいっている 安心感がある</p>
	SNSやホームページを使っている情報発信は今の時代ならでは良いと思う	(イメージの発信が)区役所でみれるといい	
	SNSやホームページに掲載して情報発信をすることで若者を含む幅広い世代に関心を持ってもらえる		
	アキハスムのHPはセンス良く集約されていてわかりやすい		
	区民主体による発信、活動(動画配信など)		
	地域主体による移住、定住のための仕組み構築の実態を間近に見ることができた		
	「FMにいつ」の活用は有意義		
	「あきは区だより」として一面に発行されている		
	区だよりは写真掲載が多くて見易く、区民が求める情報が得られていると感じる		
	イベント開催の発信で認知度は向上した		
	イメージ発信はシンビックブライドの醸成になった		
	市民の発信力を高める取り組みは方向性としてとても良い		
	観光ガイドの皆様活躍がすばらしい		
	新津鉄道資料館は鉄道文化拠点として、その貴重さを多くの区民が感じていると思う		
	鉄道資料館の運営は成功していると思う		
里山の利活用の促進			
マイナース	家においてラジオを聴く人はどれほどいるのか？	広報活動でFMにいつを活用促進する為、区役所1Fにも聴けるようにしたらどうか	
	(FMにいつで)発信する側がマンネリになっていないか？	SNSやHPのフォロー情報、閲覧件数などが見える様にして改善していく。区役所待合室で公開	
	アキハスムプロジェクト公式facebookページが情報発信手段として市民にどこまで浸透しているか実感がないのは残念！発信し続けることが大切なのは？	「区だより」で重要な情報を適切に発信し、必要であれば、区役所だよりの別冊でその他情報として配信する	
	情報の更新を小まめに進めることが必要(例:きらきらプロジェクトの最終更新日は2019年12月6日で終わっている)		
	実際に移住に興味を持つ人向けの窓口をわかりやすくすべき		
	akihastumu.comにアクセスしようとするとサインインを求められるが？意味がわからないし入りにくい		
	SNSは「つながり」を育てるノウハウが必要。区運営では限界がある		
	里山・鉄道・油田と宝物は多いのに、そこへ行く交通手段やその情報が乏しい (新津鉄道資料館は)コロナ禍による来客数の目標65人に対して、50%程度の為、さらなる施策が必要(区内外の学校関係にも参加してもらおうなど)		
	よい施設はあるが、コンテンツの魅力UPが必要		
	若者や子どもが行きたくなる様なプログラムやWSが不足している印象		
	近隣エリアへのPR不足(来客促進)		

②個性を生かした交流のあるまちづくり			
プラス	いろいろな団体と協働でイベントをするのは大きな成果が得られると思う		●秋葉区のオンリーワンを具体的に描く 一番にあげられるものがある(他にないもの) 芸術・歴史、ボケ・石油・鉄道
	JR・商店街との協働による街づくりができています		
	移住者体験農園での農作物を介して住民との交流があった		
	R403のフラワーロードは秋葉区の特長のひとつである花が観光スポットになり得る。通過点であってもその効果は大きいと思う		
	きらめきサポートPが施策と市民をつなぐ良い場になっている		●自転車で行ける便がいいまち 駅に降りると鉄道のまちを感じられるまちづくり 車を使わなくても自転車・徒歩でどこまでも行ける安全な道づくり(歩道・自転車道路) 町中の車の速度制限 秋葉区の全員が魅力を感じられる(仕事があり、自然にめぐまれ、互いに相談できる)
マイナス	商店街でのイベントでは駐車場はあるのでしょうか？	共通テーマで新商品を開発しPR、拡販で盛り上げる(健康食品etc.)	●秋葉山など人が集まれる資源を活用したい 一年中、人が集まる場所があれば良い 秋葉山が県外からも来てもらえる観光地になっていけばいいですね。自然豊か。広い駐車場。 新潟市中心部より近く秋葉山を整備する事で多くの人に来てもらい活性化につなげる 区民誰もが集える公園があればよい。そこに商業施設はもちろん交通面が充実してほしい
	商店街の景観の見栄えがよくない	コロナでも実施できるイベント企画、マイクロツーリズム活用検討	
	秋葉丘陵の整備が中途半端	里山の利活用の継続ができる施設・設備をそろえていく。例えば、見晴らしい所にキャンプ場を造るとか	
	新津川公園の手入れ不備		
	市街地商店街の悪い景観		
	近隣休耕農地を活用したい		
③文化の継承と創造による文化活動の振興			
プラス	新潟市全体ではなく秋葉区のみで作品を発表するのは、ある意味ハードルが低くて参加しやすいと思う		
	市民参加の創作発表の場提供(美術展)がよい		
マイナス	文化財の保護・継承する為の仕組みがあるといいが		
	人口減少や出品者の固定化が進んでいるのであれば、早急に開催方法を考えるべき 作品の選考・審査で恒久的に展示や鑑賞ができる場があるといい。継続できるといい。(公園のオブジェにするなど)		
④健康で豊かなスポーツ活動の振興			
プラス	幅広い年齢の人たちとスポーツ交流ができるのは区民の健康意識にもつながって良いと思う		
マイナス	予算の流れ(使途)がよく分かりません		

IV. 花のまち・食のまち・育てるまち【4班】

コメント 方向性 の まとめ	フラワーロードの魅力を地元がまず理解して、1人1人が発信していく。
	新潟薬科大学の「知の財産」を地域がもっと利用できるような仕組みをつくる。
	花のまちをデザインするコーディネーターを起用する。
	学生と地域が交流できるチャンスと場を増やす。

これまでの取り組みの評価		評価の集約または今後の方向性	
		個別意見	まとめ
<b>①全国屈指の花き・花木の園芸産地の魅力発信</b>			
クラス	R403のひまわりは中央区をはじめ他の区の方々からも話題になる取り組みだと思います。 R403、フラワーロードは秋葉区の花のまちのPRIになると思う。4車線化になるまで続けられたら。 R403沿いの作業をみてたいへん。O.K。(取り組みはとても良い。一方で整備はなかなか大変) (フラワーロードの)整備をしている人の引き継ぎはうまくいっている。 花の咲いている時、キレイ!!	(フラワーロードの)スイセンはニホンスイセンにするのと良いのでは。 フラワーロードの花や地域の花壇の整備について、花の種類、植え方など詳しい地域の人にはたくさんいる。大学や植物園など専門機関もある。	フラワーロードの取り組みは区外からの評判も良く、とてもいいので続けたい。整備の担い手も、今のところ確保できている。 「はなのまち」全体を専門的な視点を加えながら整備していくことが必要。
マイナ	403号以外の各町内の花壇が寂れている。 (フラワーロードは)花が咲いていない時きたない…。 どこに発信したのか、地元でも浸透していないのに、どこに発信したのか(分からない。曖昧である) PRがなっていない。やったからと言って自己満足。数字に現れないのはやっていないのと同じ。	・フラワーロードを観光にも利用すると良いかもと思うが、車を止める場所などがなく、ゆっくり見ることが難しそう。 ・R403フラワーロードは、園芸関係者がかかわっているのか、指導とか。 ・車に乗らない人にも伝えて、花を見てほしい。 ・地元民がフラワーロードの魅力に気づいていないのではないかと。1人1人が理解して発信するとい。 ・フラワーロードを市外・県外の人へアピールしたい。他にもあちこち見どころを回ってもらいたい。 ・フラワーロードを見に来た人が回れるような、秋葉区の名産・歴史・お宝などをまとめて発信できるアンテナショップをつくってはどうか。宿泊施設も整備したい。	R403を車で通る一部の人にしか魅力を伝えられていない。ゆっくり花を眺める場所になっていない。 PR戦略が練られていない。 フラワーロードに人を招いた後の観光戦略も併せて整備していく必要がある。
<b>②環境にやさしい、安心・安全な農作物の供給</b>			
クラス	秋葉区の特徴ともなるような農作物の供給になるのではと思うと素晴らしい取り組みだと思います。		豊かな農産物は秋葉区の魅力的特徴である。安心・安全な供給のための取り組みは良い。
マイナ	ハード・ソフト・需給調整(現状把握シートに記載があるが、何をされたのかよくわからない) 大規模(農家)ばかり支援しがち。	農地の担い手が少なくなる場合、どのように継続した事業にするか工夫が必要かと…。 小規模・個人農業で取り組む人への支援がより大切。	大規模農家だけでなく、小規模・個人農家にも支援をしていく。
<b>③新潟薬科大学、商店街などとの連携</b>			
クラス	ランチマップは良かったが…(取り組みはよかったと評価。一方で最近では効果が見えないようだ) 最近、薬科の参加。つるぎり隊、河川除草、商店街のネオン、ガラボン参加etc(薬科大学の学生が地域と連携してさまざまな活動に参加していることがとても良い。 ガラボンのスタッフ等の積極的参加は有難いです。 自立セミナー、よかった。続けて欲しい。 大学と共に発展する地域として注目されていると思います。		薬科大学の学生による各種地域活動のおかげで、地域が活気付き、学生も経験から学ぶことが多い。大変良い取り組みなので続けていく。 薬科大学の公開講座が良い。地域と学生が交流する場、お互いに学び合う場を設ける。 地域に新潟薬科大学があることをもっと活かす。
マイナ	予測しなかった感染症拡大等があり、なかなか今後の継続について提案や工夫も必要になるかと思えます。 まちづくり、掛け声だけではだめだ。学生の気持ちになって欲しい。体をはって人を呼ぶ努力(が足りない)。	・学生は、みんなと会話をしたい。お茶してたむろくして。勉強する。Wi-Fiのある店(があるといい) ・「ランチマップ」最近うまくいっていないと思う。 ・文化的な方面でも街に刺激となって欲しい。(学生には、もっと街へ出て、地域に刺激をたくさん与えてほしい)	Withコロナの中で、知恵とアイデアを出し合っていることを模索していく。 学生にはもっと街へ足を運んでもらいたい、地域と交流して、若い感性や力を発揮してほしい。 学生たちが気軽に集まれる場所、喫茶店や寮を駅前に整備したい。

V. 生み出し活かすまち【5班】

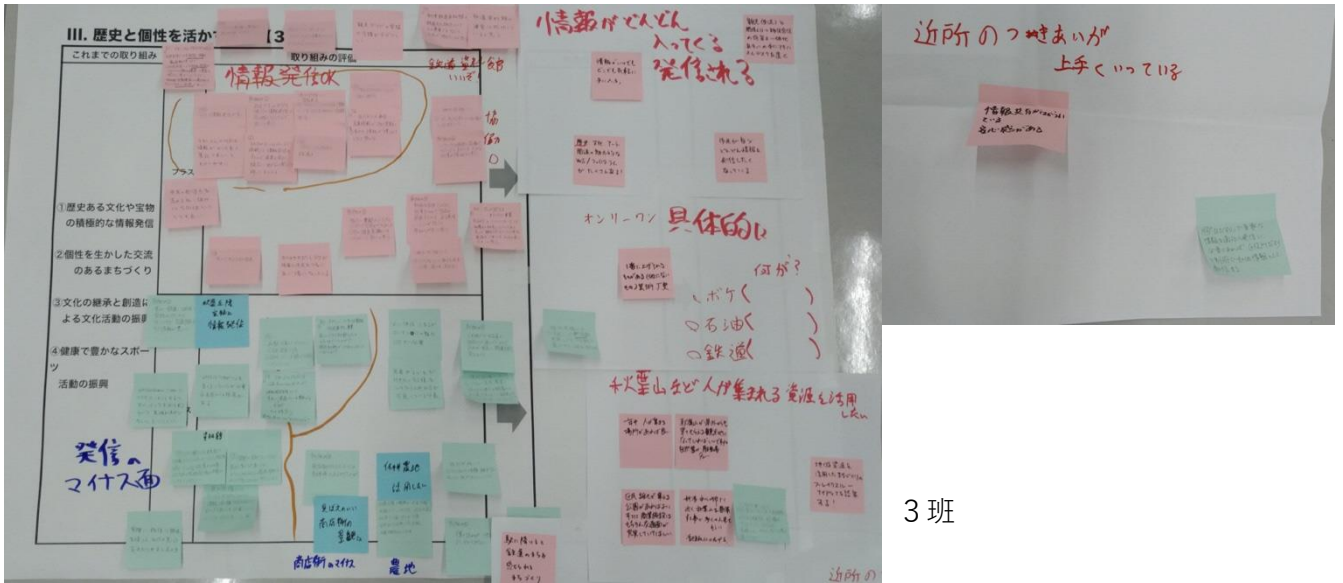
コメントの方向性のまとめ	商店街は元通りを目指すのではなく、これからの新たな形を模索していく。
	一過性のイベントにとらわれず、長期的なファンづくりを念頭に置いた施策を打つ。
	花のまちである特性を活かし、まちなかをお花で彩ろう(フラワーロード)。
	学生×地域住民だけでなく、企業やお店を巻き込んだ大きな集合体を目指す。
	既存のものを活かす視点で、個々の魅力も繋げていく。ヒトも立派な魅力である。

これまでの取り組みの評価		評価の集約または今後の方向性			
		個別意見	まとめ		
<b>①産業の振興</b>					
ブラス	コロナ禍でも小さなイベントを企画・実施していた。 「にいつ鉄道商店街」として鉄道ファンが訪れている。 新津駅西口は郊外大型店の進出で日常の買い物しやすくなった。 新津駅西口には無料駐車場がある。 新津駅西口には魅力的なお店が増えた。 福祉と産業・農業がコラボする製品が開発されている。 もち麦のレシピブックが配布中。 農業振興の1つとしてもち麦の生産推進。	商店街の中で地道な活動が続いている。  新津駅西口周辺には大型店が進出して賑わいが生まれている。  農業を切り口に新しい産業が生まれつつある。、特にもち麦は薬科大とのコラボで製品化が進んでいる。	商店街のお店は常連客をつかんで離さないことが大切。一過性のイベントよりも、ファンづくりができるような施策をしていく。  商店街各店舗の魅力UPはもちろんのこと、元通りを目指すのではなく商店街の新しい形を模索していく。		
	マイナス	中心市街地の衰退。 新津駅東口の店舗やホテルなどが廃業・撤退している。 売り上げの減少や利用者の減少が問題になっている。 新津駅東口商店街の空き店舗が目立ってきた。 新津駅東口には魅力的な店舗が少ない。 商店街のお店にシャッターが多くなっているのが悲しい。 東口商店街から常連客が逃げていった。 新津駅東口には無料駐車場がない。 東口に無料の駐車場がほしい。 東口と西口の車の通行がもっとスムーズになったらいいのに。 東口側の道路の拡幅が必要。 クーポン等が不正に使用されている。 各商店街と行政とをつなぐ中間支援組織がない。 高校生が気軽に集える場がない。 若い世代同士でのつながり、動くための場や機会がない。 鉄道観光の限界を見据えた新たな観光方策の構築。 新津フードセンターがなくなったことで高齢者がいなくなった。 お魚屋のマルヒコさんが閉店した。	新津駅東口の商店街から賑わいが失われつつある。店舗の廃業や撤退が相次ぎ、シャッター街化している。結果として西口周辺に人が移り変わっている。  ・新津駅東口には無料駐車場の需要がある。 ・商店街では路上駐車も多く、道幅の狭さが問題になっている。  商店街活性化のクーポン制度は実効性を検証する必要がある。  今後の方針の足並みがそろっていない。  若い世代が街なかで活動する拠点ができてほしい。  常連さんが集うお店がなくなったことで地域のファンがいなくなった。	お店同士がつながることで、商店街として足並みをそろえた活動が期待される。  高齢者・子どもたちにとっての居場所をつくる。  既存のものを生かすことに注力せよ。  ヒトも資源である。宝の持ち腐れになっているので、個々の魅力を繋げていくことが大切。  花を見られる環境を整備しよう。  街なかをお花で彩るのもいい(フラワーロードに)。  秋葉山にもっと足が向かうようにしたい。花と緑のまち。	
		<b>②バイオ技術に関する学術研究の拠点化</b>			
		ブラス			大学と住民だけでなく、企業を巻き込むことで雇用を生み賑わいを生むという循環を目指していく。食品企業の誘致はどうか。
		マイナス	事業の内容自体が自治協委員に伝わっていない。  薬科大学の持つ専門性が生かし切れていない。	薬科大学の専門性が生かし切れているかどうかに関して疑問符がある。	薬科大から地域までつなげたい。専門性を生かした活動を行い、同時に活動を地域住民に周知する。巻き込む。  バイオの研究を生かす。研究内容を幅広く知ってもらい機会を設ける。
			バイオ産業が未設置。		花きも連携できる。アザレアの花の改良を研究して、アザレアのまちとして売りだしていく。

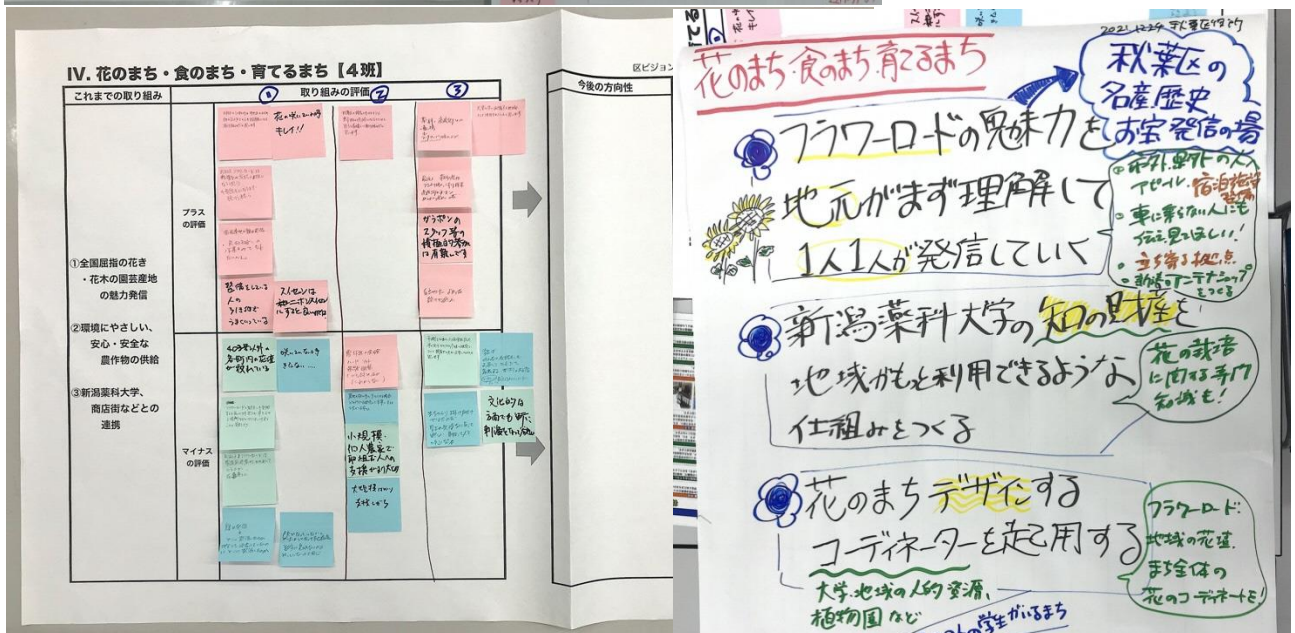
③新潟薬科大学と連携した健康、自立の確立経緯			
ブ ラ ス	もち麦を使った試作ビスケットを薬科大で作っている。	製品化して行ってほしい。	薬科大とコラボして薬草やハーブの製品化を目指す。
	学生知識や学びを地域に還元することができる。	薬科大学の学生を主体とした地域活動が少しずつ広がっている。	
	学生の活動が地域の方々から喜ばれている。		
	薬科大が開学したことで学生たちの地域活動が生まれている。		
ナ マ ス イ	ウォーキングの際のプランツウォーキングなど他にも連携できる面があるが活用されていない。	学生との連携には伸びしろがある。	







3班



4班

新しい世代の  
既存の文化!

### V. 生み出し活かすまち【5班】

2021.12.24/秋葉区  
区ビジョンまちづくり計画ワークショップ

これまでの取り組み	取り組みの評価	課題の方向性	方向性のまとめ
<p>①産業の振興</p> <p>②ハイテク技術に関する学術研究の奨励化</p> <p>③新潟薬科大学と東北連携した健康、動物福祉、自立の確立経緯</p>	<p>プラスの評価</p> <p>① 既存の文化を大切にしながら、新しい文化を生み出す。</p> <p>② 学術研究の奨励化により、地域の活性化が期待できる。</p> <p>③ 新潟薬科大学と東北の連携により、健康、動物福祉、自立の確立が実現している。</p>	<p>課題の方向性</p> <p>① 既存の文化を大切にしながら、新しい文化を生み出す。</p> <p>② 学術研究の奨励化により、地域の活性化が期待できる。</p> <p>③ 新潟薬科大学と東北の連携により、健康、動物福祉、自立の確立が実現している。</p>	<p>方向性のまとめ</p> <p>① 既存の文化を大切にしながら、新しい文化を生み出す。</p> <p>② 学術研究の奨励化により、地域の活性化が期待できる。</p> <p>③ 新潟薬科大学と東北の連携により、健康、動物福祉、自立の確立が実現している。</p>

西口  
 若い世代の  
 学生生活  
 環境を整備せよ!  
 花見の季節  
 商店街各店舗  
 の魅力UP!!(東口)  
 元祖大目撃  
 新たな  
 形。

5班

### 3. 参加者のふりかえり

シート回収数 24 枚

#### 〈Q1〉全体の満足度

平均値 4.26

(とても満足した：5 満足した：4 普通：3 不満だった：2 とても不満だった：1として算出)

#### 〈Q2〉Q1でそう思った理由は？

##### ■とても満足した (7名)

- ・短時間の中で、今一度秋葉区を考え直すチャンスがあったことか。これまであまりそのような時間を取ることもなかったので、良い機会となった。
- ・普段できない様な意見の交換ができた。
- ・グループ一人ひとりの話が聞けて、皆様楽しそうだった。
- ・短い時間ではあったが委員の方々のお話をたくさん聴けた。
- ・活発な意見交換が出来た。
- ・活発な意見がどのグループも出ていたと感じました。コーディネーターの方も良かったです。
- ・各々の意見をよく項目ごとにまとめて下さったので。

##### ■満足した (15名)

- ・秋葉区の課題がハッキリした。10年後の目標がハッキリした。
- ・秋葉区のことを改めて客観的に感じる事ができ満足できた。
- ・今まで郷土について考えることはなかった。他の人が考えていることを聞くことができてよか

った。

- ・自分では気づけない意見を知ることができた。コミ協の人たちは、現状や背景をよく知っている。
- ・皆んな活発に秋葉区を思う意見が多かった。
- ・皆さん思っていることが同じだった。良くしたい所。
- ・みんなの気持ちがだいたいいっしょだった事。
- ・思っていること、言うことができた。
- ・意見、アイデア百出で有意義でした。
- ・多様性があるって方向性が理解できた。
- ・一つの課題に向かっていく目的がはっきりしてくる達成感があった。
- ・自分では気づかなかった事を気付かせてもらえた。
- ・各委員の秋葉区にますます熱意が感じられ、刺激を受けた。
- ・専門の方々が段取りよく進行してくれた。
- ・時間通りに進行した。

■普通（1名）

- ・思いをまとめるには時間がたりない。

■未記入（1名）

- ・地域の知らない話（話題）出て参考になった。

### 〈Q3〉WSでの気づき

- ・ 皆さん、思っていることが同じ。
- ・ 皆さん考えていることは似ている。新潟民は守る7：変化3ぐらいの考えだなど。
- ・ 皆んな、秋葉区を良くして行こうという思いが伝わった。
- ・ 同じ地域に住み、みんなが同じように感じていると気づいた。
- ・ やっぱり皆さん同じ問題でした。立ち寄る場所があると良い。
- ・ 秋葉区を良くしようという思いが強いと感じた。
- ・ 秋葉区愛が強い。
- ・ 地元愛、大切にしたい。薬科大学に対する若い力への期待が強い。
- ・ 魅力がある秋葉区、あとは発信とアイデアかと。
- ・ かなりいいところまできている。あとはブレイクスルーのアイデアがあれば。
- ・ 秋葉区は宝がいっぱいある。既存の良さを再認識再検討。
- ・ 公に何かお願いすることよりも、まちの人、1人1人ができることが、まだまだあることに気づきました。
- ・ 町中活性化のために人が集まり。街を知ることができ、名産品等も購入できる場所(センター)が必要だと感じました。
- ・ 市所有地を商業利用し易くすること。企業、コミ協が合わさりながら事業化すると地域の課題をピンポイントでアプローチできる。
- ・ 人を大事にしつつ住む人が花を楽しむ文化づくりをしていく！

- ・新津の町がとてもたいへんだなあと、今行った事ないのに。
- ・テーマについて普段あまり考えていないということ。
- ・ふせんが事前に配布されて3日間悩みました。むずかしい宿題でした。
- ・2班の元気、やさしさ、両方を備えたまちづくりの重要さ。
- ・知らない歴史の話も聞いた。
- ・歴史的な観点が。
- ・これからも前向きな考え方をして行きたい。
- ・多様な観点があることに刺激を受け自分の固さを反省した。

#### 〈Q4〉WSで嬉しかったこと・残念だったこと

##### ■嬉しかったこと

- ・今回の様に未来的な事を区全員が考えられるといいと思った。
- ・地域の活性化に関する話が多く出た。
- ・楽しく秋葉区のことを考えることができた。皆さんの意見を聞くことができた。
- ・皆さんと1つのテーマでお話し、交流できたこと。
- ・まわりの人と意見交換が出来た。
- ・意見をたくさん聞くことができてよかった。
- ・良い話が聞けました。
- ・いろいろな意見が出てよかった。
- ・活発にWSが進行できた。

- ・協議会委員の意思疎通は素晴らしい。
- ・秋葉区を良くしたい思いが伝わった。
- ・皆さん地元愛がある。
- ・秋葉山に対する思いが出席の方々強いのを感じた。
- ・良くしようと思うと、お金が必要。
- ・みなさんと話し合う中で、心が解放されていくのを感じました。
- ・委員の発表を皆が受け入れる気持ちの広さに感心した。
- ・各班の発表がすばらしかった。
- ・それぞれの発表が素晴らしかった。
- ・悲しそうでなくて、期待あふれる発表だった。
- ・まち校のみなさんと一緒に地元でお仕事できたこと。

■残念だったこと

- ・時間が足りなかった。
- ・時間が足りな——い。
- ・時間が少なかったのが残念。
- ・もう少し色々お話しできれば良かった。
- ・もう少しで議論が深まりそうだったこと。
- ・もう少し資料を読み込んでくるべきだった。
- ・なかなか思っているが意見を出しても実行されないという所。
- ・担い手となる企業が不足している。

- ・秋葉区の里山、河川、田園の活用をもっと深くしていきたい。

#### 〈Q5〉 その他、気づいたことなど

- ・シビック・プライドが高い！！何があっても大丈夫と思えた。
- ・あるものをちゃんと活かせれば、秋葉区はOK！
- ・秋葉区を活性化するには、もっと強烈なアピールが必要。PRがよくない。せっかく良いものが点在しているのだから人は来ている。何かまとまってくる様な場所があれば…。新津には薬科大学、1800人、有効に活用していけたらよい。
- ・秋葉区「いいところに住んでいるね」と言われるようなまちになりますように。
- ・PRが足りない…。残念です。
- ・情報ルートが必要だと思った。
- ・しゃべるのはかんたんだけでも、自分の考えをふせんにかくのは難しい。
- ・楽しい機会をありがとうございました。
- ・ワークショップは委員のみなさんと親しくなれる。
- ・今回2回目のワークショップで、事前準備があるとスムーズに進むことが気づきです。
- ・プロのファシリテーターがいてくれて、大変良かったと思います。
- ・おつかれさまです。ナタリー、いっぱい書いてごめんなさい。よろしく申し上げます。
- ・お疲れ様でした。